上海市人民政府副市長・華源先生、ご列席の皆様、本日は、4年ぶりにこのように多くの皆様と共に天皇陛下のお誕生日をお祝いできますことをたいへん嬉しく思います。ご列席いただいた皆様の日頃からのご支援に改めて深く感謝申し上げます。

徳仁（なるひと）天皇陛下におかれては、明後日２月２３日に、６３歳のお誕生日を迎えられます。

昨年は新型コロナに翻弄された一年でしたが、その中にあっても、多くの日中双方の皆様の努力により、日中国交正常化５０周年という大きな節目を記念する数々のイベントを開催することができました。

田中角栄総理と周恩来総理との間で日中共同声明が署名されてからちょうど５０年後の昨年９月２９日には、岸田文雄総理と習近平国家主席との間でメッセージの交換が行われ、建設的かつ安定的な日中関係を構築していくことで一致しました。習近平主席からは「新時代の要求にふさわしい中日関係を共に構築していきたい」との積極的なメッセージを頂きました。

また、昨年１１月１７日には、対面では約３年ぶりとなる日中首脳会談が行われ、習近平主席は「中日関係には幅広い共通利益や協力の可能性がある、中日関係の重要性は変わらない、岸田総理と共に新しい時代の要求に相応しい中日関係を構築していきたい」との発言があり、両首脳は「経済や国民交流の具体的分野で互恵的協力は可能であること、環境・省エネを含むグリーン経済や医療・介護・ヘルスケアの分野等での協力を後押ししていくこと」を確認しました。

総じて、コロナ禍での制約はありましたが、共にこの５０年を振り返り、これからの日中間の更なる協力・交流についての決意を新たにすることができた１年だったと感じております。

本年は、日中平和友好条約締結４５周年という昨年に続き日中双方にとって記念すべき年です。

　今からちょうど４５年前、中国の国家指導者として初めて、鄧小平副総理が日本を訪問し、福田赳夫総理との間で、日中平和友好条約が締結されました。

鄧小平副総理は、この訪日期間中に、新幹線に試乗し、製鉄所、自動車工場、家電工場などを視察されました。中国ではその後すぐに「改革開放」が本格的に始まり、日本からは、１９７９年１２月から昨年３月までの間に、総額３．７兆円に及ぶ政府開発援助（ＯＤＡ）や民間の投資を通じ、中国の驚異的な経済発展に貢献してきました。

　中国は、世界第2位の経済大国へと発展し、日本の対中ＯＤＡは昨年その歴史的使命を終えましたが、今や、日本と中国切っても切れないパートナーとして、アジアのみならず世界全体の繁栄と安定のために大きな役割を果たすことが期待されています。

中でも、当総領事館の所管する上海市、江蘇省、浙江省、安徽省、江西省の１市４省と日本との経済関係は、域内ＧＤＰはドイツを上回って日本に迫り、日本との輸出入の約半分、対中直接投資の約８割を占め、日系企業の約７割が集積するなど特に緊密です。

「日中の経済活動の中心地は、ここ華東地域であり、その状況は今後も当面変わらない」と言えるでしょう。

　新型コロナに係る規制が大幅に緩和された本年は、中国、とりわけこの華東地域と日本との間の人の往来が急速に回復するを期待しています。

　世々代々にわたる日中両国間の良好な交流こそが双方の利益となり、世界の平和と安定及び繁栄の基礎になるということに思いを致し、皆様と手を携えて、未来に向かって、日中間の国民交流、経済交流を大いに後押ししていきたいと思います。

本年を、新しい時代の要求に即した、建設的かつ安定的な日中関係の構築に向けた希望に満ちた一年にしていこうではありませんか。

さて、本日は、日本企業及び日本の地方自治体事務所にご協力いただき、別室には様々な展示ブースを設置しています。昨年１１月の日中首脳会談では、グリーン経済や医療・介護・ヘルスケア分野での互恵的協力で一致を見ましたが、今回は、その中にもある「介護・ヘルスケア」をメインテーマの一つに据えて展示いただいております。また、地方自治体のブースでは、また日本に行ってみたい！と思っていただけるような日本各地の魅力をご紹介していますし、本日は特別に日本の和食親善大使もお招きしており、親善大使による世界への和食の発信も間近に見ていただけるようにしてあります。ぜひこれらの展示もゆっくりと参観していただければと思います。

　最後になりますが、日中間の直接の人的往来が一日も早くコロナ前の状態に復し、日中関係が皆様と共に協力し合うことによって更に発展していきますことを、そして、日中両国各界の皆様の益々のご発展、ご列席の皆様のご健勝とご多幸をお祈りし、私の挨拶といたします。ありがとうございました。